

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社エドベック

【ツール名】

オンライン英語学習パッケージ
Reading & Listening Master

【ツールの機能分類】

オンライン語学学習

2023年2月



オンライン英語学習パッケージ Reading & Listening Masterとは…

⇒ 生徒の英語運用力育成・評価のためのオンライン学習パッケージ
学習ツール（e-learning）でのトレーニング前後に確認ツールで効果測定



【学習ツール】

インプットからアウトプットまで一貫してトレーニングできるe-learning教材。マルチデバイス対応でいつでもどこでも学習できる利便性に富んだICT教材

▶ ツールの特徴：

- ① マルチデバイス対応で、いつでもどこでも学習できる利便性に富んだICT教材
- ② 学習管理システムにより、生徒の学習状況、成績状況を確認することが可能

【確認ツール】

ReadingとListeningの運用力を測るためのオンライン型英語テスト

▶ ツールの特徴：

- ① アダプティブ機能により、受検者（生徒）の解答状況に合わせて出題内容が変化
- ② 結果は受検後約1週間で返却。タイムリーな生徒の学力把握が可能

▶ 活用方法：

学習ツールは学校の方針に合わせて、自宅学習、夏休み課題、朝学習などで活用。7月と12月に確認ツールを受検することで、生徒の英語運用力の伸長を可視化のうえ確認。その後の指導改善につなげる

英語運用力育成につながる学習・指導PDCAサイクルの構築へ

■ EdTech ツールの概要

学習ツール コンテンツ例：

本学習ツールは、大学入試レベル、高校入試レベルの英文を素材としています。①英文を読む、②英文を聞く（全文または英文のかたまりごと）、③確認テスト、④全文訳での内容確認など、各自で工夫しながらトレーニングすることができます。



←メイン画面

↓コンテンツ（問題）例

A screenshot of a lesson page on the English Xpress website. The page is titled 'English Express Online' and shows a listening exercise. At the top, there is a play button and a progress indicator '0:00 / 3:41'. Below this, there are two toggle switches for '語彙' (Vocabulary) and '全文' (Full Text). The main content area features a graphic with five colorful speech bubbles containing the words 'Hello', 'Hola', 'Bonjour', 'Hallo', and 'привет', along with the Japanese phrase 'こんにちは'. Below the graphic, there is a text block starting with 'Professor : Good morning. Tom says everyone did the homework reading, so I want to begin today's class on intercultural communication. My first question is "Why do we need to study intercultural communication?" Would anyone like to answer?'. Below this, there is a text block starting with 'Student 1 : Yes, I'll try to answer that. People may think the way they do things or the way they view the world is "natural" and "correct". When they meet other someone from a different culture, they expect'. On the right side of the page, there is a question section titled '次の会話は、「異文化理解」をテーマとして、ある大学で行われた授業でのやりとりの一部である。文中の[1]~[3]に入れるのに最も適当なものを、下から一つずつ選べ。'. Below this, there is a list of four options for question [1]:

- there were many more cases of intercultural communication in the past
- we can cope with cultural misunderstandings more easily and smoothly
- intercultural knowledge encourages people to study in a foreign country
- some ways of living are considered to be more correct than others

パッケージ価格（一式） 8,472円（税別） / 9,320円（税込）

<サービス内容の詳細>

- ①学習ツール 最大12ヶ月利用可能
- ②オフラインワークシート
- ③学習・指導効果測定ツール

ENGLISH EXPRESS		Title
Exercise 1 / Read Aloud & Grasp what the paragraph says. (10 mins.)		
※Please pair up with a person sitting next to you.		
Task A	Take turns reading the sentences in each paragraph aloud.	
Task B	Briefly explain what this paragraph means to your partner.	
Exercise 2 / Mini-Presentation (15 mins.)		
Presentation Sheet		
Opinion: (意見・感想)		
この話について自分の意見		
Reason: (理由)		
そう思った理由		
Problem: (課題点)		
話の中の問題点など		
Point: (結論)		
最終的な自分の結論		

左：オフラインワークシート

下：教員用成績管理画面

テスト	テスト	正答率	正答率
全問正解	6	67%	90%
	テスト	正答率	正答率
2018-08-31	1	0%	0%
2018-07-31	1	0%	0%
2018-06-30	1	100%	80%
完了時間			
Breakfast		2017-02-27 07:54:31	80%
2018-05-31	1	100%	80%
2018-04-30	1	100%	100%
2018-03-31	1	100%	100%
All	6	67%	80%
全問正解	6	0%	0%
全問正解	6	33%	100%

■ 学校等教育機関の抱える課題（各校へのヒアリングより）

【生徒の抱える課題】

【ICT関連】

- 生徒が家庭でPC（自学用）を持っていない
- 家庭にWi-Fi環境がない
- タイピングに慣れていない etc.

【学習面】

- 英語が苦手な生徒が多い
（中学英語から復習ができる教材が必要）
- 高校へ上がる段階でのステップアップが必要
- 海外研修に向けた事前学習が必要 etc.

【教職員の抱える課題】

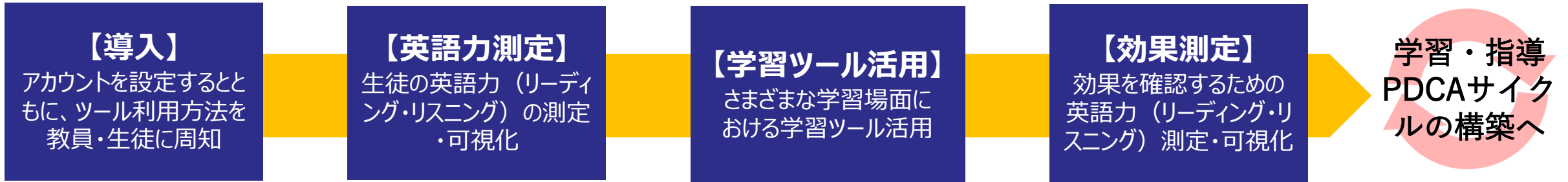
【ICT関連】

- 学校の特色を出すため、ICT教材の活用を進めたいが、適当なツールが決められない
- 学校の課題が多いので、自宅学習として生徒の自主性にまかせられるツールがほしい
- 課題を気軽に提出できるツールを活用したい etc.

【指導面】

- 英語を使った実体験を多く取り入れたい
- 一人一人の個性やコミュニケーション能力を伸ばしたい
- 指導と評価を一体で進めるために、適切な効果測定が必要 etc.

学習ツールの活用事例



学習ツールの活用方法：

- 学習ツールの活用率を、学習への取組という**成績の評価項目の一つ**に取り入れた。
- **自宅での学習教材**として、生徒各々のペースに合わせて学習をさせた。英語が苦手な生徒にとっては、中学英語から学び直しのできる学習ツールとして有効だった。
- **夏休みの課題**として設定をした。
- 定期考査後など、節目で利用して**次の目標設定として**位置付けた。
- 確認ツール実施時の終了時間はまちまちなので、早く終了をした生徒に、余った時間での学習課題とした。

確認ツールの活用事例

A校の実施例（7月実施）

学年	試験時間	人数	教室数
	開始		
高3	9:10	47	2
高2	11:10	47	2
高1	13:45	47	2



B校の実施例（12月実施）

組	試験日	試験時間	人数	教室数
		開始		
4	12月12日	13:40	40	1
6	12月13日	9:50	40	1
2	12月14日	9:50	40	1
7	12月14日	13:40	40	1
5	12月15日	9:50	40	1
1	12月16日	10:55	40	1
3	12月16日	10:55	39	1



写真（左）：A校

写真（右）：B校

■ 補助事業において実施したサポート内容 1

①パッケージ導入時の説明会

教員に対して「導入の案内」を使いながら、活用までの流れを説明。学習ツールの管理者マニュアルを利用して、生徒活用状況の管理方法についても説明。ICT活用による英語指導の質的改善を企図して、活用事例案を提示。①自宅学習と学校の授業の組み合わせ、②自宅学習と学校での朝学習との組み合わせなどの提案を行う。ワークシートを参考資料として提供

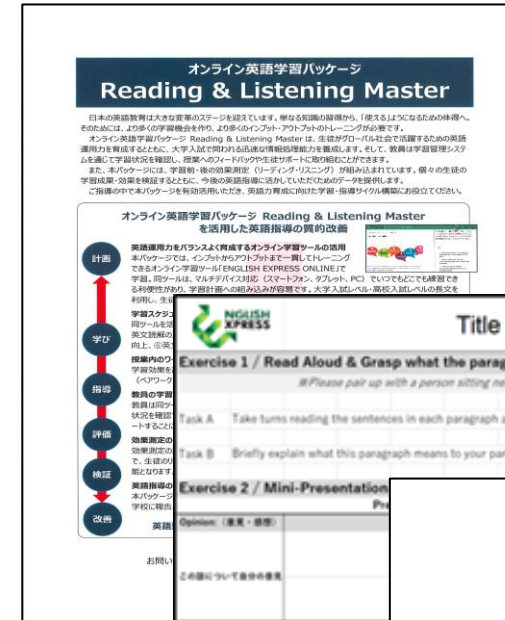
②利用ガイドの配布

生徒に対して1冊ずつ「利用ガイド」を配布。学習ツールの効果的な活用方法、確認ツールの受検に際しての留意点、サンプル問題をご案内

③研修動画

学習ツールの利用方法をより知っていただくために研修用動画を作成。お忙しい先生が、お手すきの時間にご覧いただけるように工夫

<https://edvec.co.jp/eo/movie.html>



(上) 説明会資料
(中) ワークシート
(下) 利用ガイド



■ 補助事業において実施したサポート内容 2

④コールセンター（専用窓口）の設置

<サポート期間>

6月21日（火）～12月26日（月）

10:00～18:00 電話対応可。スタッフ2名

※実際に受けた問い合わせの内容

- ・インポートフォーマットのPW確認
- ・学習ツールのPCアクセスの復旧作業

⑤学習状況の案内

①9月（夏休み後）、②11月1日、③12月1日、
④12月26日 計4回、学習ツールの活用状況
の報告を実施

⑥確認ツールの結果の報告

確認ツールの結果を学校と共有。更なる活用
に向けてのアドバイス



EdTechツール導入校数

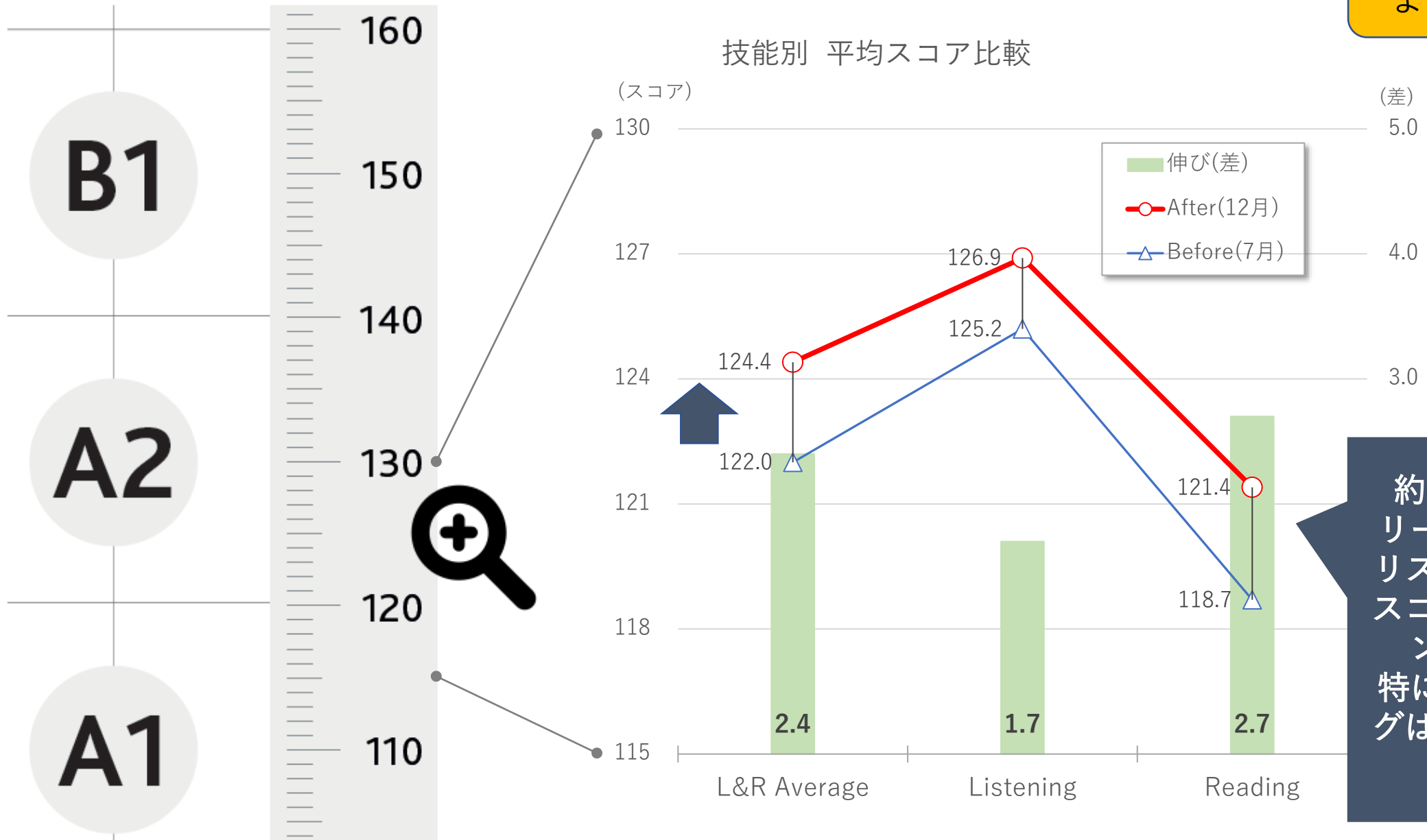
導入先	校数
学校等設置者	1
学校等教育機関	5
合計	6

採用学年・活用人数

所在県	運営主体	採用学年	活用人数
群馬県	市立	中3	129
栃木県	県立	高3、高2、高1	141
長野県	県立	高1	279
新潟県	県立	高3、高2、高1	140
新潟県	県立	中3	44
東京都	私立	中3、中2、中1	15

■ EdTechツールによる活用効果～学習ツール活用前後の英語力伸長（7月→12月）

確認ツールによる効果測定

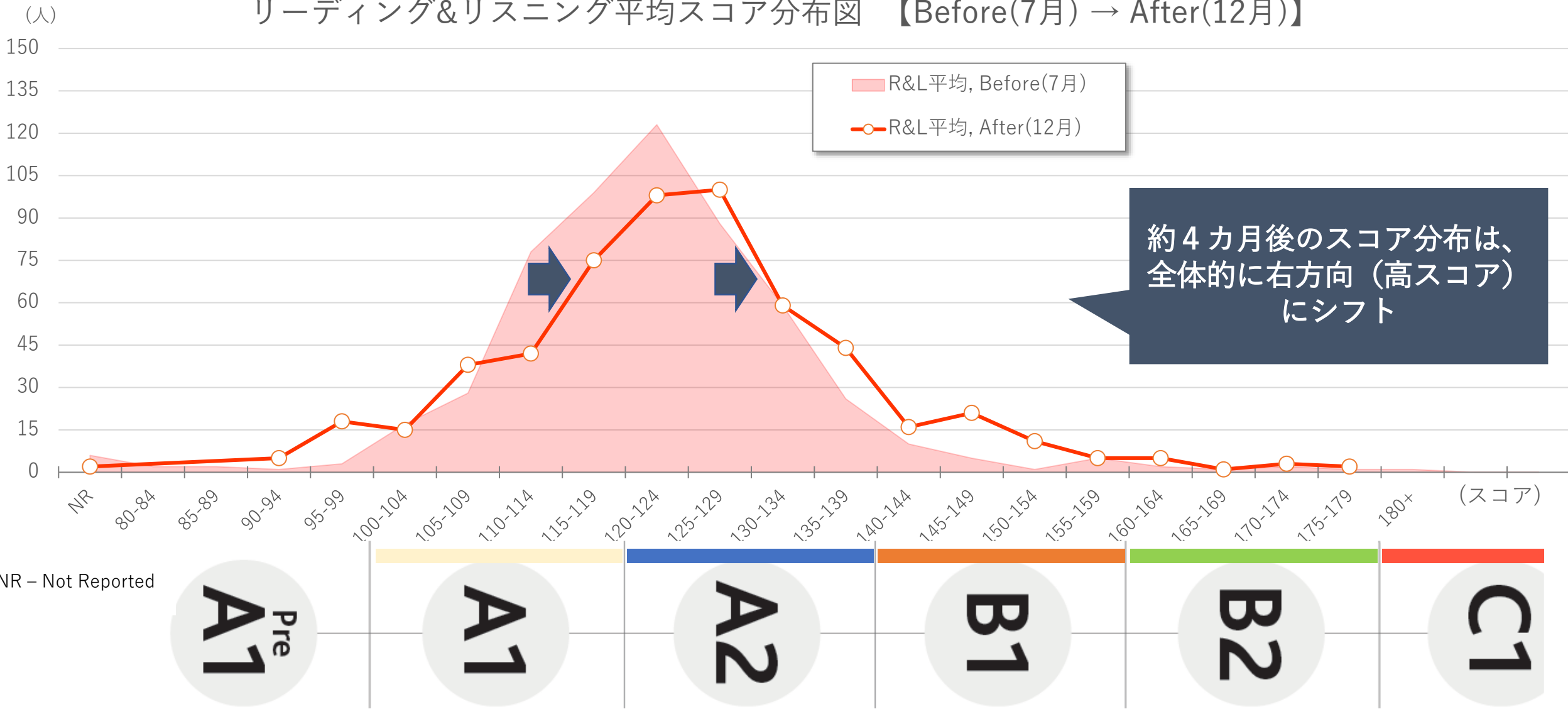


約4カ月間でリーディング&リスニング平均スコアは2.4ポイント向上。特にリーディングは2.7ポイント向上

EdTechツールによる活用効果～学習ツール活用前後のスコア分布比較（7月→12月）

確認ツールによる効果測定

リーディング&リスニング平均スコア分布図 【Before(7月) → After(12月)】



■ EdTechツールを活用した生徒・教員のコメント感想等

生徒のコメント

自分のペースで学習ができることがよかった

英語だけでなくタイピングの勉強ができた

難しい問題を辞書を引きながら解くようになった

長文を読むのが苦ではなくなり力がついた

単語の意味をタップすると意味が調べられた

1つの単元を解く時間が決められていたので集中してできた

苦手な分野もわかりやすく勉強できた

速読力がついたと感じる。音声を聞きながら読むことで、さらに英語に親しみ慣れることができた

長文が前よりも早く読めるようになった

中学レベルから復習ができた

難しい長文を読もうと頑張り少し力がついた。学校の教材だとできないような問題に取り組めた
語彙が増えた

共通テストの形式の問題演習が多くできたこと。リスニングもできる

いろんな問題に出会うことができ英語力が上がったと思う

英語能力が少し上がったと思う。また、リスニング能力も上がったと思う

長文問題に慣れるいい機会だった

どれぐらいの人が正解なのか割合が分かるところがいい

難しい文章を読む力が少しはついたのかなと思った

普段取り組まないような文章の問題に取り組めた

教員のコメント

新鮮な学習機会を提供できた

気軽に取り組める配信課題だと取り組む生徒が出てきた

自宅にPC環境のない生徒に対するケアが必要だった

EdTechツールの導入・運用における課題

- ①教室の学びをICTで変えるために、授業内での活用（朝活など）を教員と相談したが、期中からの組み入れが難しかった。
- ②学校のインターネット接続時に制限がかかるケースがあった。また、家庭学習で活用する場合、家庭によるデジタルデバイドが課題であった。

課題を解決させるための改善策

- ①23年度継続活用の為に、それぞれの学校のカリキュラム事情に合わせて、無理なくICTツールを活用できるように提案をする。
- ②アフターGIGA構想を見据えて、学校内でのICT活用を推進していくためには、ローカルブレイクアウトの促進が必要と感じた。

■ 会社概要

本社 : 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークプラザ5階 Regus

創立 : 1997年1月6日

設立 : 2001年4月2日 * 創立時の法人から2つの事業部門を分離し、当社を設立

売上高 (2021年度) : 2.1億円

代表者 : 代表取締役社長 バジル・トンクス

主要取引銀行 : 三菱UFJ銀行 三井住友銀行 横浜銀行

【お問合せ先】

TEL : 0120-26-5494

FAX : 050-3730-8504

MAIL : info@edvec.co.jp

